

「長浜小学校の長浜小波濤太鼓伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立長浜小学校

2 学年・人数

4・5・6年生（計16人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成30年11月～12月，平成31年1月～2月 長浜小学校体育館

(2) 発表の日時・場所

平成31年2月9日（土） 長浜小学校学習発表会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

長浜小波濤太鼓（ながはましょうはどうだいこ）

(2) 由来

波濤太鼓は昭和59年，地域おこしの一環として，「新たな郷土芸能を」と青年層を中心に発足した。その後，小学校高学年をメンバーとして団を結成し，毎年，学習発表会等で披露するようになった。今年度で発足33年目を迎える。

(3) 構成等

冬の荒れ狂う海の壮絶さと，どこまでも青く澄んだ穏やかな海をイメージして作られた勇壮な太鼓と歌，踊りである。

前列に3張りの締太鼓，中列に4張りの中太鼓，後列に3張りの大太鼓を配置し，中・大太鼓は1～2人で叩き合う。およそ8分間の演奏である。

5 保存会や地域との連携の具体

地域の継承者が指導者となって小学生を指導している。現在中心となる指導者は1人であるが，仕事の都合をつけて，頻繁に指導に来てくださる。学校と指導者で連絡を取り合い，練習日時等を決定している。

学習発表会や地域行事等での発表に向けて，概ね2か月くらい前から，週2回程度練習を行っている。1回の練習時間は1時間。初心者に対しては，バチさばきから丁寧に指導して下さり，リズムをしっかりと身に付けるまで，熱心な指導がなされる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら継承していくために，毎年5・6年生がメンバーになる流れができています。4年生においても希望を募って参加しています。また，ふるさと・コミュニケーション科のカリキュラムに位置付け，郷土教育の学習の一環として，授業の中でも練習を行うようにしています。

年度によっては，教職員がメンバーに入ったこともあり，教児一体となって伝統芸能の継承に貢献しようという気運がある。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



小学校体育館での放課後練習の様子



保護者・地域住民へのお披露目会



学習発表会での発表



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童】

- ・ 波濤太鼓はすごく迫力があるので、いつも興味津々で見っていました。だから、太鼓を叩けるのをとても楽しみにしていました。一生懸命練習して、みんながすごいと言ってくれるようにがんばりたいです。
- ・ 長浜小学校に受け継がれている波濤太鼓を叩けることをうれしく思っています。見ている皆さんが感動するような演奏ができるようにがんばります。
- ・ 波濤太鼓は、長浜小学校に伝えられている大切な伝統芸能なので、これからも弟たちにしっかり引き継いでいきたいです。

【保護者】

- ・ 子供が真剣に太鼓に打ち込んでいる姿を見て、いつも頼もしく思っています。地域の伝統文化を継承する一員としてこれからもがんばってほしいです。

【教職員】

- ・ 体育館から太鼓の音が聞こえると、学校全体に活気がみなぎります。また、子供たちの精一杯の様子にいつも感動します。長浜小学校のよき伝統として、これからも受け継がれていくことを願っています。
- ・ 学校と地域が一体となって、地域の文化を伝承していくことは素晴らしいことだと思います。これからも大事にしていきたいです。

【地域の方から】

- ・ 地域の伝統文化として波濤太鼓が継承されていることを誇りに思います。波濤太鼓で地域の活性化がさらに図られることを期待しています。